

# 令和7年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（中京もえぎ幼稚園）

## 教育目標

たくましく心豊かな子どもの育成

～主体的に環境に関わり、夢中になって遊び込む子どもの育成をめざして～

## 年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月9日（木）	学校運営協議もえぎティンクル
最終評価		

### （1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

- いろいろな遊びに興味や関心をもち、一人一人が“やってみたい”と遊び出す姿や、個の“やってみたい”がつながり友達と遊びを広げていく姿を捉える。
- 遊びが生まれ、つながり、広がり、深まるための教師の援助と環境構成を探っていく。その際、写真や動画で記録し、子どもの姿をドキュメンテーションなどにより可視化する。
- 毎月1回、教員で園環境を見直したり、写真をもとに子どもの姿を共有したり、エピソード研修をしたりする。

#### （取組結果を検証する）各種指標

- 子どもの姿の変容や日々の保育実践
- 子どもの“やってみたい”という思いについての保護者アンケート結果
- 外部への研究成果の発信回数や外部からの意見

## 中間評価

### 各種指標結果

- 事例より、個々の「やってみたい」が生まれ、教師の援助により発展していく様子が見られ、更に子どもの興味関心が深まり、集団の育ちに向かうための援助について検討することができた。

・保護者アンケート「お子さんは幼稚園生活を通して“やってみたい”という思いが生まれて友達とつながり。思いが広がったり深まったりしていると思いますか」大変そう思う 63%そう思う 36%あまりそう思わない 1%
--

自己評価	分析 (成果と課題)
	子どもの「やってみたい」思いに関する保護者アンケートは高い評価が得られ、一定評価できるが、教職員のアンケートでは保護者よりも低い評価となっている。子どもの「やってみたい」という思いをもっと引き出せる、もっと援助の方法があったのではないかと感じていることがわかり、教員自身も納得できる保育の成果をあげるために援助や環境、家庭との連絡等の在り方について検討していく必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善

園内研修、学年会、プチ園研を充実させ、本音で語り合い、担任と子どもの関係を第一にしながら、全教員で全園児を見ていく体制を強化し、保護者にも取組を理解していただくように努める。

#### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・子どもの姿の変容や日々の保育実践
- ・子どもの“やってみたい”という思いについての保護者アンケート結果
- ・外部への研究成果の発信回数や外部からの意見

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	・子どもの生活の説明を受け子ども自ら「やってみたい」と思って幼稚園生活を楽しんでいることがわかった。開かれた教育課程と言われている中、運営協議会でも「伝統文化」等の分野で協力していくのではないか。

### 最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

### (2) 幼保小の架け橋プログラムの推進について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学前後に小学校と子どもの様子を伝えあい、子どもが安心して小学校生活を送れるように支える。</li> <li>・地域の保幼小を互いに参観し、研究保育・授業を行うことで、教員同士が互いの教育の理解を深める。</li> <li>・地域の幼保施設と合同で園外保育に出かけたり互いの園で遊んだり授業に参加したりして、子どもたち同士の継続的な交流を行う。</li> </ul>

- ・ 地域の小規模保育園と連携し、0～2歳の保育との連携を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 保育参観（参加）・授業参観を計画的に行い、相互の教育の理解。
- ・ 架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直し状況。
- ・ 近隣の就学前施設や小学校への発信・交流状況
- ・ 「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果

中間評価

各種指標結果

- ・ 地域の保育園の先生方と「にじっこ」の会合を行い、今の子どもたちの様子を共有し、年間の計画を立てることができた。同様に、就学前施設と小学校の計画も架け橋主任を中心にたてることができた。
- ・ 夏の研修では、小学校、保育園、幼稚園の教員・保育士が一堂に会し、京都市教育委員会架け橋スーパーバイザーの京都教育大学教授古賀松香先生のご講演を元に互いの意識を高める研修ができた。
- ・ 園内研修や研究保育に小学校より来ていただき、幼稚園教育について理解を深めていただくことができた。
- ・ 保護者アンケート「幼稚園は小学校や保育園とともに積極的に「架け橋プログラム」に取り組んでいると思いますか」大変そう思う60%そう思う37%あまりそう思わない2%そう思わない1%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 新しく保育園の仲間を迎える中、これまでの架け橋の取組を踏まえ、更にスムーズに進めていくように架け橋主任が密に連絡をとり、年間で先生同士が最大限学び合える計画を立てることができた。
- ・ 実践交流やカリキュラム見直しについては、後期に多く計画している取組の中で行っていかなければならない。
- ・ 新しい保育園とも架け橋の仲間としての意識をもち関わっていくことができた・
- ・ 今後の取組を更に発信し、保護者や地域の理解を得ていけるようにしていいう必要がある。
- ・ 御所南小学校だけでなく、地域の四校一園の取組がわかるように、各校の月便りを掲示したことは保護者の地域の学校への関心を高めたのではないか。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 取組の発信の方法を探り、理解を広げる。
- ・ 小学校、保育園と互いに状況を理解し合いながら、持続可能な交流や学びを探っていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・ 保育参観（参加）・授業参観を計画的に行い、相互の教育の理解。
- ・ 架け橋期のカリキュラムの実践・検証・見直し状況。
- ・ 近隣の就学前施設や小学校への発信・交流状況
- ・ 「架け橋プログラム」の取組についての保護者アンケート結果

学校関係者評

学校関係者による意見・支援策

- ・ 先生同士が近く、大変よく勉強されていることがわかる。就学への子どもの不安も解消されているように思う。今連携している御所南小学校に行かない子どもたちにも小学校というものが想像しやすく同じような効果があると思う。しっかり続けていってほしい。

価	
---	--

### 最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

### （3）預かり保育に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>日々保育を振り返り、個々の興味関心に応じ、やりたいことがゆったり楽しめる環境を整えたり、子どもの興味や発達、時期や季節等から遊びに新鮮さや変化も取り入れたりし年間を通して内容の工夫をする。</li> <li>未就園児クラス（満3歳児）の預かり保育の提供を実施する。</li> <li>担任、預かり保育担当教員、家庭との連携を密にとる。</li> </ul>
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し</li> <li>担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り</li> <li>預かり保育の姿からの発信状況</li> <li>「預かり保育」についての保護者アンケート結果</li> </ul>

### 中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>参加人数が多く、一人一人の欲求に対して十分に叶えることができないことも1学期は多かったができる限りの対応に努めてきた。</li> <li>保護者参加の催し等も募り、ダンス体験やテニス体験、おもしろサイエンス等を催し、生活に変化をつけることができた。</li> <li>満3歳児の預かり保育も1日に6名参加する日がある等、認知されてきている。</li> <li>保護者アンケート「預かり保育での遊びを楽しみにしていますか」大変そう思う36%そう思う46%あまりそう思わない13%そう思わない5%</li> </ul> <p>自由記述「おやつの内容の検討」</p>

自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児の参加も多く、基本的生活習慣の支えも預かり保育の中で大きな仕事となってきており、対応がなかなか十分にできない面もあったが、ボランティアさんの配置を工夫したり、教員が参加したりしながら少しづつ落ち着いて預かり保育の時間が過ごせるようになってきた。</li> <li>・週2回のもえぎティンクル絵本読み聞かせボランティアさんによる読み聞かせに加え、保護者の方の預かり保育参加により普段では味わえない体験をすることができた。</li> <li>・担任と預かり保育担当者との連絡は意識して密にとるようにできた。</li> <li>・玄関掲示やHP発信に努めたが、発信を増やしていき、預かり保育の様子が伝わっていくようにしていく必要がある。</li> <li>・満3歳児の預かり保育への参加が増えてきており、この取組の一定の評価がされているが、場所の確保、人の配置について再検討していかなければならない。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に対応した午睡の見直しや環境の見直し等を行う。</li> <li>・子どもの興味にあった玩具や遊びについての検討をする。</li> <li>・預かり保育の内容の発信</li> <li>・おやつについては、アレルギー対応や予算等の点で難しいが検討していく。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育での日々の子どもの姿の振り返りと指導計画の見直し</li> <li>・担任や預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り</li> <li>・預かり保育の姿からの発信状況</li> <li>・「預かり保育」についての保護者アンケート結果</li> </ul>
	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤めても中京もえぎ幼稚園の教育を受けることは、預かり保育があるため、他の項目よりも評価が低いようだが、任せきりでなく参加する人もみんなで協力して取り組んでいく気持ちが大切なのではないか。</li> <li>・満3歳児保育は今とても重要で「自己発揮できる」2歳児を育てるように頑張ってほしい。</li> </ul>

## 最終評価

自己評価	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p>

## （4）子育ての支援について

### 具体的な取組

- ・子育て相談であるほっとちゃっとを行ったり、家庭教育講座等を開催したりし保護者の学びや情報交流の場を設定する。
- ・未就園児クラス（満3歳児）への預かり保育提供の実施を始める。
- ・未就園児の教育相談として、運営協議会や地域の方、元保護者・現保護者の方など子育てについての不安や相談、体験談、情報提供等を受けたり、話したりできる場作りや企画の提供を行ったり、未就園児クラスと在園児とのふれあいの場を設定し、子どもの育ちや発達を知る機会を設定したりする。また、保護者同士のつながりづくりに努める。
- ・地域の小規模施設や就学前施設との連携に取り組み、保育参観を行い、乳児の育ちを学び子育て支援に活かす。

### （取組結果を検証する）各種指標

- ・未就園児教育相談への参加者数（親子参加・満3歳児参加）および意見
- ・未就園児教育相談担当者への聞き取り
- ・小規模保育事業所との連携状況
- ・未就園児教育相談についての発信状況
- ・「未就園児の教育相談」についての保護者アンケート結果

### 中間評価

#### 各種指標結果

- ・京都市「親支援プログラム」ほっこり子育ての一環で行っている誕生会後の「ほっとちゃっと」では「いつくしむ」というテーマで毎回開催することができた。預かり保育利用者が多い中、降園時間が合わず、保護者同士が話をする機会がなくなっている中、井戸端会議的な話ができる機会として開放し参加者の増えてきている。
- ・保育士経験のある未就園児教育相談担当者に、満3歳児にとっての環境構成について聞き取りを行った。
- ・小規模保育事業所の先生方と連絡を取り合ったり、行き来し合ったりする中で、幼稚園の教育について関心をもっていただき、小規模保育事業所の保護者の方にも伝わるようなってきた。
- ・未就園児教育相談についての発信はHP、Instagram、チラシの配布によって行った。
- ・保護者アンケート「教育相談、満3歳児預かり保育は地域の子育て支援の場になっていると思いますか」大変そう思う64%そう思う35%あまりそう思わない1%

### 自己評価

#### 分析（成果と課題）

- ・ほっとちゃっとの参加者は去年よりも増加し、アンケートをとっても参加してよかったですとの回答が多くかった。できるだけ自由に話ができる機会としていきたい。
- ・満3歳児にとってふさわしい環境を共に考えることができた。特に、身辺自立に関連する環境（靴の置き場所、かばんや水筒の置き方など）について、より実態に応じた環境にすることができた。
- ・小規模保育事業所の先生方への働きかけが幼稚園への理解や親しみつながりつつあり、子どもたちも幼稚園に遊びに来ることでよい交流ができつつある。続けていきたい。

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・場所の確保、人の配置について再検討していく。

#### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・未就園児教育相談への参加者数（親子参加・満3歳児参加）および意見
- ・未就園児教育相談担当者への聞き取り
- ・小規模保育事業所との連携状況

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児教育相談についての発信状況</li> <li>・「未就園児の教育相談」についての保護者アンケート結果</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策  地域に2歳児以下がいなくなったと言われているが、幼稚園という教育の場を欲している未就園児はいるので、この豊富な教育の場で親子ともに安心して子育てが学べる場として大事に運営していってほしい。小規模保育事業所との良い関係について聞き、地域の子どもが健やかに育っていく基本となるよううれしい。

#### 最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己 評 価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題  分析を踏まえた取組の改善
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策

#### (5) 地域とのかかわり(社会に開かれた教育課程)について

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園便りやHP、Instagram等で幼稚園教育や幼稚園の活動、取組を発信する。</li> <li>・学校運営協議会の方や地域の方をゲストティーチャーとして幼稚園運営に参画していただき子どもや保護者と地域の方とをつなぐ。</li> <li>・地域の小規模保育施設や就学前施設、小学校とのつながりを広める。</li> </ul>
	(取組結果を検証する) 各種指標

#### 中間評価

	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園便り、HP、Instagram等で発信した。</li> <li>・絵本ボランティアさんによる週2回の預かり保育での読み聞かせ、祇園祭のお話会、お茶体験などを実施した。</li> <li>・保護者アンケートを踏まえて、幼稚園の現状や改善について意見のいただいた。</li> <li>・保護者アンケート「学校運営協議会もえぎティンクルの活動は幼稚園の経営を豊かにしていますか」大変そう思う61%そう思う39%自由記述「有意義な活動をしていただいているのに、もえぎティンクルって何?という保護者がありもったないと思う。もう少し活動内容を発信してもよいと思う。」</li> </ul>

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発信に努めているが、今後も意識して取り組みたい。</li> <li>・幼稚園の取組にいつも協力的な姿勢でいてくださるので、その都度の依頼がしやすく、また例年行っている取組も安心して行うことができる。取組ごとに発信に努めたが学校運営協議会の取組ということがなかなか認識されにくい発信方法を更に工夫する必要がある。</li> <li>・保護者アンケートでは学校運営協議会の取組がわかるような問い合わせにしたので、ある程度評価が高くなつた。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の取組がわかりやすく認識してもらえるような発信方法を検討する。</li> </ul>
	<b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育の発信状況</li> <li>・学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況と取組の発信状況</li> <li>・学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況</li> <li>・「学校運営協議会（もえぎティンクル）」についての保護者アンケート結果</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 保護者の方にもティンクルの活動が認識されてきているのがうれしい。更に取り組んでいく。

#### 最終評価

自己評価	<b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b>
	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>

#### (6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<b>組織的な園運営と勤務時間への意識改革</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間制限だけではなく、働き甲斐、働きやすさを園全体での追及</li> <li>・ICT 機器の効率的な活用による業務の軽減</li> </ul>
具体的な取組	<b>具体的な取組</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自身の超過勤務時間の把握し勤務時間に対する意識を高め、計画的な業務改善を目指し、超過勤務時間の短縮や年休取得につなげる。</li> <li>・ICT（アプリ）を活用したアンケート回答や弁当注文集計、欠席連絡、プール時の健康調査など</li> </ul>

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・年休取得状況、超過勤務状況
- ・働きやすさについてのヒアリング結果

中間評価

各種指標結果

- ・年休取得、超過勤務については管理職以外はほぼ良好な状況である。
- ・ICT 活用の効果はほぼ去年並み。
- ・働きにくさについては意見がなかった。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・ほぼ目標は達成できている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・その時々の課題に対して、これまで同様に対処していく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・年休取得状況、超過勤務状況
- ・働きやすさについてのヒアリング結果

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

先生方の働き甲斐があってこそその幼稚園だと思うので、管理職を含め、無理のない働き方をしながら熱意をもって保育に当たってほしい。

幼稚園の安全という面で、セキュリティの改善は働き方にも関連していくのではないか。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策